

防ぎ得る外傷死や外傷後遺症の減少を目指して

外傷診療の最先端が島根に

医学部では、全国初となる「Acute Care Surgery(アキュート・ケア・サージェリー)講座」及び、専門的な外傷診療を行う「高度外傷センター」を設置しました。さらなる救命率の向上と外傷救急医療の底上げに取り組む渡部広明センター長にお話をうかがいました。

外傷診療の体制構築と人材の養成が急務

「アキュート・ケア・サージェリー」とは、外傷外科、救急外科、外科的集中治療の3つを外科の一領域として考えるアメリカ発の診療概念です。「アメリカでは、重症外傷は外科の中に位置づけられますが、日本では救急に位置づけられ、これは他の国から見ると特殊なんです」と、渡部教授は話します。

2000年の厚生労働省の調査によると、外傷を負い救命救急センターに搬送され死亡した人のうち、約40%は適切な治療で助かった可能性があったといえます。外傷診療に関する卒前教育の不足と治療体制が整っていないことも、この結果の要因になって

診療・教育・研究を柱に外傷救急医療の底上げを

この外傷診療の課題に、いち早く取り組んだのが島根大学でした。島根は人口対比で見ると、外傷死の割合が多い県ですが、外傷患者を受け入れる体制がありませんでした。このような状況下で、全国で初めて医学部に診療・教育・研究の3つの柱を掲げたAcute Care Surgery講座を設置。2017年8月には高度外傷センター棟が完成しました。

「①患者さんの到着と同時に治療を開始できる体制であること、②センターにO型の血液を常時おくことで素早い輸血が可能であること、③あらゆる外傷に対応できるスタッフが集まっていること、この3つが大きな特長で



Acute Care Surgery講座
高度外傷センター

渡部 広明 教授・センター長

大学が地域に貢献している様子が伝わってきました。
次号も楽しみにしています。

(広島県世羅郡・50代男性)

若人のがんばる姿には元気をもらえます。
日々の生活でも、何かの大会でも
がんばる姿をまた見せてください。

(島根県浜田市・30代女性)

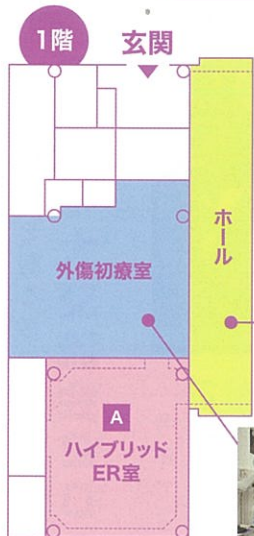
学生さんが「目的」を持って入学、
日々精進しておられることに
強く感銘致しました。

(島根県出雲市・70代男性)

センター内部を紹介!

1階 外傷診療フロア

重症外傷患者さんの診療を行うエリアです。入口正面には外傷初療室、その奥には、重症外傷患者さんの治療と検査が同時に行えるハイブリッドER室を備えています。初療室の東隣にはホールを設置し、災害時や多数の外傷患者さんの受け入れ・初期診療等が可能なエリアになっています。



救命救急センターと共通の玄関。



最大30名程度が受け入れ可能な広さです。



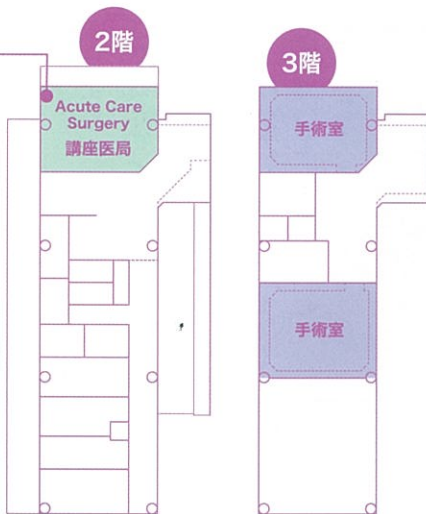
3床の診療台を備えています。手術室空調となっているので、緊急手術も可能です。



センター内の各診療室の状況と、患者さんの心拍数も表示されます。

2階 医局/3階 手術室

2階には講座の医局、3階は2つの手術室があります。医局内に設置されたモニターで、センター内の診療状況や内容をリアルタイムで把握できるようになっています。また、EMIS(広域災害救急医療情報システム)の情報を表示できるモニターも設置し、災害時の情報取得や指揮に最適な環境となっています。



国立大学での導入は島根大学が初めてのハイブリッドER。救急室、手術室、CT室、カテーテル治療という4つの機能が1つの部屋で完結できるようになっています。

いと渡部教授は言います。日本の救命救急センターは、初期診療は救命救急の医師が行い、診療結果によって専門の医師に治療を引き継ぐものです。「経済効率が良い反面、治療が開始されるまでに時間がかかりすぎます。そこで、即座にどの領域でも対応できる医師の養成と配置体制が必要となってきます」。

「また、設備面でも、日本に9箇所しかないハイブリッドERを導入し、患者さんを動かすことなく診療・治療が可能になりました。大学教育の面では、今年度から4年生でAcute Care Surgeon講座のチュートリアル教育を開始。5年生では、シミュレーターを使って外傷の初期診療の技術を修得、そして6年生では指導医がマンツーマンで担当し、実際の患者さんを相手によりリアルティのある実習を行います。これは全国で島根大学だけ。島大の医学生はとても貴重な経験ができますよ」。

そんな講座の次のステップはドクターカーです。「自ら現場に出て行くことで、治療を開始する時間を少しでも早くすることが大切」と渡部教授は話します。「島根県は人口対比でみると重症患者数が多い県。救命率を向上し、限りなく0に近づける努力をしたいし、そういった技術を持つ人材を育てていきたいですね」。日本における外傷診療の最先端として、果敢な挑戦が続きます。

読者の声
Voice

広報しまだい
vol.34に
寄せられた声をお届けします。

エスチュアリーという言葉が興味深かった。
見知らぬ土地に共通点があると
うれしいものですね。

(島根県松江市・40代女性)

ジャムやトマトジュース以外で
島大農場で収穫し・加工した
商品をぜひ取り上げてほしいです。

(島根県松江市・50代男性)